



今回は「日本列島ジオパーク巡り」第3回として阿蘇ジオパークを紹介します。2021年10月現在、日本ジオパークは44地域、そのうち9地域がユネスコ世界ジオパークですが、阿蘇ジオパークは、前回、前々回で紹介した、糸魚川ジオパーク、洞爺湖有珠山ジオパークと同様、ユネスコ世界ジオパークにも登録されています。

阿蘇ジオパークは九州中部にあり、阿蘇カルデラを中心に8市町村（熊本県阿蘇市・南小国町・小国町・産山村・高森町・南阿蘇村・西原村・山都町）にまたがります。広さは東西約18km、南北約25km、面積約350平方kmと世界最大級の規模を誇ります。カルデラの中央部には、現在も噴煙を上げ続ける中岳をはじめとする阿蘇五岳（高岳、根子岳、杵島岳、烏帽子岳）と、多くの山で構成される火山群「中央火口丘」があります。火山群の麓には平坦なカルデラの底地が広がり、火山群と平地を取り巻く「外輪山」があり、その外側にはなだらかな火碎流の大地を形成しています。「阿蘇山」という単体の山は存在せず、学術的にはこれらの外輪山までを含めて「阿蘇火山」と呼んでいます。



阿蘇五岳のうち四岳



中岳火口

阿蘇地域は、国立公園が初めて制定された1934年に『阿蘇国立公園』として指定を受け、1986年に名称が現在の『阿蘇くじゅう国立公園』となりました。ちなみに、くじゅうは「九重」と書きますが、くじゅうと読むと山の名前、こここのえと読むと町の名前（大分県玖珠郡九重町）を使い分けられているようです。さらに、九重連山の本峰は久住山で漢字が違います。大分県竹田市の行政区には久住町があり、ここはかつて直入郡久住町でしたが2005年の合併により町としてはなくなっています。九重、久住の2つの漢字が存在するのは、この地に九重山白水寺と久住山猪鹿狼寺の2つの寺院が開かれたことによるといわれます。

世界有数の規模を誇るこの阿蘇カルデラの中やその周辺には、現在7万人余りの人々が生活し、古くから火山と共生して独特の文化を育んでいます。阿蘇の各地に広がる広大な草原は、千年以上にわたって放牧、採草、野焼きを繰り返してきた歴史的産物です。活動火山とともに人々は、自然との共生をはかり、自然に畏敬の念を抱いて、独自の文化を育んできました。広大な阿蘇ジオパーク、一度は訪れてみたいものです。



ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番1号
TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184
URL <https://www.kokudo.or.jp>



北海道・北東北の縄文遺跡群、世界遺産に登録

第44回世界遺産委員会において、日本から申請されていた『北海道・北東北の縄文遺跡群』（文化遺産）、『奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島』（自然遺産）の2件が世界遺産リストへの登録決定となりました。この会合は、昨年中国の福建省で予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止、今年7月にオンライン開催されました。これで日本の世界遺産は25件（文化遺産20件、自然遺産5件）になります。

今号では、文化遺産としては2019年の『百舌鳥・古市古墳群』（大阪府）に続く20件目となった『北海道・北東北の縄文遺跡群』をご紹介します。

当初は青森県が県内8つの遺跡を国内の推薦候補に提案しましたが見送られたため、北海道など他県と共同提案することで2009年に国内の推薦候補の前提となる「暫定リスト」に掲載され、政府が世界文化遺産への登録を目指して推薦書をユネスコに提出していました。

この遺跡群は、北海道と青森県、岩手県、秋田県に点在する17の縄文時代の遺跡で構成されています。

*以下は、遺跡の構造の変遷により古いとされている順になります。

- 大平山元遺跡（青森県 東津軽郡 外ヶ浜町）
- 垣ノ島遺跡（北海道 函館市）
- 北黄金貝塚（北海道 伊達市）
- 田小屋野貝塚（青森県 つがる市）
- ニツ森貝塚（青森県 上北郡 七戸町）
- 三内丸山遺跡（青森県 青森市）
- 大船遺跡（北海道 函館市）
- 御所野遺跡（岩手県 二戸郡 一戸町）
- 小牧野遺跡（青森県 青森市）
- 入江貝塚（北海道 虹田郡 洞爺湖町）
- 伊勢堂岱遺跡（秋田県 北秋田市）
- 大湯環状列石（秋田県 鹿角市）
- キウス周堤墓群（北海道 千歳市）
- 大森勝山遺跡（青森県 弘前市）
- 高砂貝塚（北海道 虹田郡 洞爺湖町）
- 亀ヶ岡石器時代遺跡（青森県 つがる市）
- 是川石器時代遺跡（青森県 八戸市）



三内丸山遺跡

地名メモ

遺跡群の中唯一カタカナを含む「キウス周堤墓群」（北海道千歳市）の「キウス」はどんな意味なのでしょう。北海道のカタカナ地名はアイヌ語由来が多く、キはアイヌ語でカヤ（茅：イネ科の植物チガヤ、ススキなどの総称）、ウシは「しげるところ」という意味で、キウシからキウスに変化したとされます。キウス周堤墓群のあるあたりは以前、沼地だったようで、今でも沼地の名残があります。

